

「生きるって」「そのものを支える」

和歌山盲ろう者友の会
子ども生活支援ネットワーク
こ・はうす

《オンラインだからこそできること》
市民公益活動サポート講座をオンラインで開催！

【市民公益活動サポート講座】

目の前の人の本当のニーズをしっかりとつかむ
心を支える・心を育てる
聴くチカラとファシリテーション

視聴日時：11.27(Fri)-11.29(Sun)

講師：霜丘 麻衣

[NPO法人コミュニティカウンセラー協会 副理事長]

Youtube
で視聴する

無料
アカウント
登録不要

東京でご活躍されている方の
講座を和歌山で！

【募集対象】和歌山市内在住あるいは和歌山市に通勤・通学している方
お名前(ご所属)、電話番号、メールアドレスを以下メールかFaxに送信してください。

メール：jichi@city.wakayama.lg.jp Fax：073-435-1253

※お申込み確認後、開催3日前を目安にメールで「放送URL」をお送りします。

主催：和歌山市 自治振興課 市民協働推進班 協力：NPO法人 NPOサポートセンター

市民公益活動情報誌

Frontier's ~フロンティアズ~

発行日 2020年11月11日

発行 和歌山市地域フロンティアセンター

お問い合わせ

所在地 本町2丁目1番地 フォルテワジマ6階

TEL 073-402-1213 FAX 073-402-1214

Email jichi@city.wakayama.lg.jp

開館時間 9:00~21:00(祝、振替休日、年末年始除く)



福祉

特定非営利活動法人
和歌山盲ろう者友の会
和歌山市美園町 5-5-1
073-498-7756
w-moro@grace.ocn.ne.jp



盲ろう者と支援者でクリスマスを楽しみました。



さをり織りの様子。見えなくても自分色を自由に織ります。

手で見る・手で聞く・手で話す。 盲ろう者やその家族、通訳・介護者、支援者が共に歩めるように。

盲ろう者って？

視覚と聴覚の両方に障がいをもつ人を盲ろう者といいます。盲ろう者は、「光」と「音」がなく、コミュニケーションや情報入手、移動が困難で社会から孤立してしまいがちです。しかし、「身体障害者福祉法」では、両方の障がいをあわせた「盲ろう」に関する規定がなく、支援がなかなか得られにくい状況です。

理事長も当事者です

和歌山盲ろう者友の会は、盲ろう者が主体の団体です。理事長の小杉さんも盲ろう者ですが、「盲ろう者にとって、仲間がいることは心の励みになる。盲ろう者のための団体があることを知ってもらい、仲間と直接話せたら嬉しい」と前向きに話されていました。ボランティアの方に対しても、「親近感をもって接してもらえれば」とのことです。

私もできる！ボランティア

・近くに盲ろう者がいたら、和歌山盲ろう者友の会をご紹介します。
・毎月第一土曜日が交流会です。一緒にゲームなどを楽しみませんか？
・時間の空いているとき、みその商店街にある盲ろう者の居場所 Heart to Hand(はあとつうはんど)をのぞいてみてください。

子ども

特定非営利活動法人
子どもの生活支援ネットワーク
こ・はうす
和歌山市楠見中 65-21
070-7790-5747
cohouse073@gmail.com



勉強している人、ボードゲームで対戦している人、思い思いに過ごしています。



こむすび塾の様子。ボランティアさんの膝に乗って機嫌よく遊んでいます。

みんな いっしょに いきていく～ひとりひとりの子どもが個人として尊重される社会を～

小さくても、ニーズがあることを発信

・夜に子どもだけで留守番をしている
・おうちの方に病気や障がいがある
・ひとり親家庭である
などの理由で居場所を必要としている子どもがいます。
そこで、地域でできることから始めようと家庭的な雰囲気の民家で子ども食堂が始まりました。

食事は、社会とつながる入り口

子どもは放課後「こ・はうす」で、学生のボランティアと一緒に過ごします。夕食の調理は新聞等で活動を知った地域の大人たちが担います。
そこには家族や先生以外の多世代の大人たちとの関わりがありました。大人の注意は聞かない小学生も、中学生の言うことは素直に聞いたり、中学生が小学生のお世話をするといい関係性もみられ、

子どもはもちろん、保護者の方にとっても、いろんな人に見守られているという実感がわく場所です。

私もできる！ボランティア

・ボランティアをゆるーく募集中です。学校とはまた違った子どもの姿を見られ、成長の過程に寄り添えます。ボランティアの方にとっても「ここにいいんだ」と安心できる居場所だそうです。まずは見学からOK。